

2024-25 年度ガバナーメッセージ

<国際協議会報告>



1月7日(日)から12日(金)まで米国フロリダ州オーランドのローゼン・シングル・クリークにて開催された国際協議会に出席してきました。世界の約200か国・地域から約530名のガバナーエレクトとそのパートナー(配偶者)が出席しており、国際ロータリー役員や関係者を合わせて約1000名の出席者が集う会議でした。

国際協議会の期間に7回の本会議と9回の分科会・ワークショップが開催され、全体会議は小職のパートナーとともに出席し、分科会等では小職とパートナーが別々のプログラムを受講してきました。事前に送付されてきた小職とパートナー合わせて100ページに及ぶワークブックを年末年始にかけ読み込んで国際協議会に臨みましたが、噂にたがわぬハードなプログラムでした。

1月7日(日)の全体会議では、2024-25年度のRI会長 ステファニー A. アーチック氏(米国ペンシルバニア州、マクマリー・ロータリークラブ所属)から、2024-25年度のRIテーマ“THE MAGIC of ROTARY”(ロータリーのマジック)が発表されました。多くの人びとを救うロータリーの力を認識してこれをさらに広げようということです。このテーマについて彼女は次のように述べました。「誤解しないでください。私たちは魔法の杖を振って呪文を唱えるだけでポリオを根絶したり、世界に平和をもたらしたりするわけではありません」。「それは皆さん次第です。プロジェクトを終えるたび、寄付するたび、新会員を迎えるたびに、皆さんはマジック(魔法)を生み出すのです。」と。

全体会議で、ステファニー A. アーチック氏が強調されたことは、平和を優先することと継続と変化のバランスを取ることでした。また、8日(月)にはマーク・ダニエル・マローニーロータリー財団管理委員長エレクトから、2024-25年度寄付目標500万ドル、2025年度までに2025万ドルの恒久基金達成という目標が示されました。

この国際協議会で示された国際ロータリーの目標は次項に記載の通りです。

2024-25年度の共同目標

ロータリーのビジョン声明

「私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能なよい変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています」



優先事項1「より大きなインパクトをもたらす」の目標

1. ポリオを根絶し、ロータリーの役割を強調し、ポリオのない世界のための計画を立てる。
2. ロータリー財団への寄付全般を増やし、2025年までに20億2,500万米ドルの恒久基金を築く。
3. クラブ、地区、国際レベルで、地域社会の調査およびプロジェクトとプログラムの測定を奨励する。

優先事項2「参加者の基盤を広げる」の目標

1. クラブとロータリーファミリーの多様性、公平さ、インクルージョンを育むための活動を推進する。
2. 既存の関係を強化し、ロータリーの行動計画に沿った新たなパートナーシップを築く。
3. 革新的なクラブと新しい参加経路を確立し、発展させる。
4. 地元と海外の地域社会におけるロータリーと会員のインパクトに対する認識と理解を高める。

優先事項3「参加者の積極的なかわりを促す」の目標

1. 会員のニーズに応え、会員維持率を高めるためにクラブを支える会員参加のためのツールを充実させる。
2. 参加者、特にロータリークラブとローターアクトクラブ間の協力とつながりを強化する。
3. 職業上のつながりを育み、リーダーシップスキルを養うためにロータリーを通じて提供される機会を紹介する。

優先事項4「適応力を高める」の目標

1. より大きな協力と運営効率を促進するための革新的なアプローチを試行することにより、地域の適応力を支える。
2. ロータリーのリーダーシップとガバナンスにおいて、多様性、公平さ、インクルージョンを支援する。

RI 会長イニシアチブ

○最優先課題は、「会員増強を図る行動計画の推進」

◆3-Year Targets

○ロータリーのマジック ……クラブでの体験を魅力的なものにする

◆ロータリーの行動計画 ……ロータリーの強さを維持するため

○積極的な平和を通じて分断された世界を癒す

◆4つのテスト ……peace pole project

○継続性

◆前任者や後任者と協力すること

◆クラブが取り組んできたことやクラブに根付いてきたことに目を向けること

3年間の目標

3-Year Targets

国際ロータリーの理事会は、活動や目標の継続性を重要な課題と位置づけ、2024-2025年度をトライアル期間の初年度とし、地区やクラブに対し理解と協力を要請しています。これはクラブのためにおこなうものです。

私たちが時代の変化とともに変化していくためにもこの方針の理解と実践が望まれます。

3年間のグローバルトライアルを設定しそのプログラムを実施します。

1. 2024年7月1日から、ゾーン、地区、およびクラブに対する3年間の目標とローリングターゲット（年度ごとに見直す）プランを実施します。
2. Rotary Club Centralをマルチイヤーターゲットダッシュボードとして刷新し、組織的に目標を整えます。
3. 上記をサポートするためのリソースと学習プログラムを開発します。
4. プログラムの評価を2027年から2028年にかけて行います。



Continuity (継続性)

3年間の目標を設定し、通常の1年間の焦点にとどまらないようにします



Simplicity & Alignment

(シンプルさと整合性)

シンプルで明確な目標設定と達成までの検証、そしてロータリーの優先事項との整合性をとることで今まで以上の成果が期待できます



Regional Adaptability (地域適応力)

クラブがその地域に適した目標を設定することで地域での存在価値を高めます

3年間の目標のキーワード

- 継続性の文化を醸成する
- 持続可能な勢いを構築する
- 重要な項目の測定をおこなう
- SMARTターゲット
- RIの目標との整合性をとる
- 会員の参加を促す（これが成功の鍵）

<地区活動方針>

地区テーマ

ロータリーを高めよう (Let's Enhance the Activity and Propagate)

ロータリー章典

第3章 地区

第17条 ロータリー地区

17. 010. ロータリー地区全般

17. 010. 1. 地区の役割

地区とは、理事会によって設けられた地理的な境界内にあるクラブの集まりである。

地区の目的は、ロータリークラブを強化し支援することである。

国際ロータリーにおいて地区の役割は明確に規定されており、地区ガバナーとして、この目的の達成に向けて全力を傾注してまいります。

2024-25年度は、地区としてクラブへのサポートを充実し、クラブがより社会に貢献する事業を行い、そのことによってクラブが活性化し、魅力が高まり会員も増え、またサステイナブルに社会貢献が展開されるという好循環を生み出すようにいたします。

目 標

- 【クラブ】 持続可能なクラブづくりへの貢献
- 【会員】 会員のやりがいと成長への貢献
- 【R I】 R I の組織構成員としての役割の遂行
- 【社会】 社会から必要とされるロータリー活動の推進と公共イメージ向上

指 標

ロータリークラブ・セントラルでのクラブの状況改善度、地区会員数の増加

基本方針

第2610地区の組織ガバナンスの強化

戦略計画

1. 目的に沿った効果的な地区委員会組織への改編と強化
2. 地区会合及びクラブ委員長会議の充実
3. 地区事業は3か年の中期タームで計画、実行
4. リスクマネジメント強化のために外部機関との連携
5. ガバナー事務所機能の向上と業務の効率化
6. 能登半島地震被災クラブ・会員への支援

地区としての具体的行動計画

1. RI 会長の理解と促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ RI 会長テーマ「ロータリーのマジック」を理解し、活動に生かす ・ ロータリーの基本理念、目的、四つのテスト、5 大奉仕の浸透と実践 ・ ロータリー行動計画の推進 ・ 2024-25 年度の RI とロータリー財団の年次目標達成を目指す ・ 目標達成のため、全クラブにクラブ優秀賞（旧ロータリー賞）への挑戦を推奨する ・ 3 年間の目標と地域計画の推進
2. 地区活動方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロータリー章典及び RI 会則並びに RI 理事会の決定に則った組織運営の実施 ・ 戦略計画策定会議による地区戦略計画の策定と展開 ・ 原年度の事業の踏襲とブラッシュアップ <ul style="list-style-type: none"> ・ チャリティランチの継続 ・ 石川県、富山県での公共イベントでのポリオ根絶キャンペーン ・ ペーパーレスとデジタル化を段階的に推進 ・ 被災地クラブ・会員への支援の強化と継続 ・ 災害支援のガイドラインを作成・運用
3. ガバナー事務所運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法律事務所、会計事務所、社会保険労務士事務所と顧問・委託契約を結び、地区組織のガバナンス強化を図る ・ 業務の効率化と支援体制の強化
4. 地区委員会運営 (共通事項)	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラブ支援のための地区委員会の再編と強化 ・ 委員会委員は委員会の継続性と地域バランスを考慮して選任する ・ ラーニング方式による運営を推進する ・ クラブ委員長セミナー等の資料は事前配布を基本とする
5. 地区ロータリー財団	<ul style="list-style-type: none"> ・ ポリオ根絶への幅広い理解を進め、会員の積極的な協力を得る ・ 地区補助金およびグローバル補助金を活用した奉仕活動を推進する ・ 年次基金寄付目標 150 ドル/人 ・ 年次基金寄付ゼロクラブ ゼロの達成 ・ ポリオプラス寄付目標 30 ドル/人 ・ ポリオプラスへ DDF の 20% を寄贈 ・ ポール・ハリス・ソサエティ (PHS) 入会 5 名増 ・ ポリオプラス・ソサエティ (PPS) 入会 25 名増 ・ メジャードナー 2 名増 ・ 恒久基金への寄付を奨励
6. ロータリー米山記念奨学会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 寄付クラブゼロの達成 ・ 普通寄付目標 6,000 円/人 ・ 地区別寄付目標 10,000 円/人
7. 会員増強	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区として純増 30 名以上 ・ ダイバーシティの推進 ・ 会員数減少クラブゼロの達成

8. DEI	<ul style="list-style-type: none"> ・DEI 研究委員会から常設委員会としての DEI 委員会への移行 ・第 2610 地区 DEI スローガン「D:誰もが、E:笑顔で、I:居心地のいいクラブづくり」の浸透 ・入会 3 年未満の退会防止のための取り組み
9. RLI	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブリーダーの RLI への参加を推進する ・ロータリーにおける最大の指導力養成プログラムという認識を広める ・ファシリテーターの育成
10. 公共イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ロータリーのビジュアルアイデンティティの理解促進 ・地区、クラブのロータリー行事でのブランドガイドラインの遵守 ・SNS 及びメディアを活用した情報発信の推進
11. 情報リテラシー	<ul style="list-style-type: none"> ・マイロータリーの登録推進 ・ラーニングセンターの活用
12. 奉仕活動	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ委員長会議などクラブ活動への支援強化
13. 青少年育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ロータリーに関わる若い世代の交流を促進する
14. 地区会合	<ul style="list-style-type: none"> ・出席対象者を拡大し、より多くのロータリアンの学びの機会とする ・地域社会に開かれた地区会合を意識し、地域への貢献と外部への発信を心がける ・ロータリー章典に則った地区会合運営とする
15. 能登半島地震復興支援	<ul style="list-style-type: none"> ・能登半島地震復興支援特別委員会を設置し、ガバナーが委員長となり、被災地支援をけん引する ・国内外からの義捐金・支援物資を被災クラブへ遅滞なく有効に届ける ・地区人頭賦課金等の減免などクラブの財務負担の軽減を図る ・被災クラブ会員への物心両面の支援を継続的に実施する ・被災クラブ会員へのメンタルヘルスケアとロータリアンでよかったと感じられる機会の提供 ・被災地のローターアクトクラブ、インターアクトクラブへの支援



水野 RI 理事エレクトと



ワークショップにて

<地区能登半島地震復興支援計画>

- 目的
1. 被災クラブの支援
 2. 被災会員の支援
 3. 被災地の支援

目的達成のための方策

1. 被災クラブの支援(対象:石川第3グループ、石川第4グループ、氷見RC、氷見中央RC)
 - ①支援金の支給
 - ②RI人頭分担金免除の申請
 - ③クラブのニーズに応じた支援策の提供
 - ④グローバル補助金、災害救援補助金、(他)地区補助金を活用した支援プロジェクトの実施
2. 被災会員の支援(対象:支援が必要な被災会員全員)
 - ①地区人頭賦課金の免除
 - ②地区会合の登録費の減免
 - ③個々のニーズに応じた支援策の提供
 - ④メンタルヘルスケアのサポート
3. 被災地の支援
 - ①支援金や支援物資の供給および人的支援
 - ②グローバル補助金、災害救援補助金、(他)地区補助金を活用した復興プロジェクトの支援
 - ③県社会福祉協議会との協定による災害ボランティア活動間接的支援の実施

組織体制(原・大橋・小山年度連携)

名称	役割
能登半島地震復興支援会議	①義援金・支援物資の最適な分配を協議、決定する ②被災クラブの活動支援の方針を協議、決定する ③被災会員の負担軽減を協議、決定する ④被災地の復興計画支援を協議、決定する ⑤次年度復興支援推進組織を協議、決定する
能登半島地震復興支援推進本部	①能登半島地震復興支援会議で決定された施策を実行する ②能登半島地震復興支援会議で諮るまでもない事案に対して、施策を判断し実行する
能登半島地震復興支援被災クラブ担当副幹事チーム	①被災14クラブに伴走して刻々変化するニーズと支援を授受し、能登半島地震復興支援会議、復興支援推進本部に報告する

能登半島地震災害復興支援スケジュール

タスク	2023-24年度						2024-25年度						2025-26年度											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
支援金提供(第1回)	◆																							
被災状況調査																								
支援ニーズ調査																								
支援リソース調査																								
支援金提供(第2回)																								
支援物資提供・仲介																								
ボランティア活動間接的支援																								
復興計画立案支援																								
復興プロジェクト支援																								
支援金提供(第3回)																								

令和6年能登半島地震に関わる退会防止のための対応

I 地区の対応策

- 1 能登半島地震における被災会員を調査し特定する
- 2 被災クラブのRI人頭分担金の免除を申請する
- 3 被災会員の地区人頭賦課金を免除する
- 4 被災会員の地区会合の登録費を減免する
- 5 被災会員の心のケアと元気づける取り組みを行う

II 各クラブの対応策

1. 早期に、退会を考えている会員の把握に努め、極力慰留する。
2. 会社、団体の被災状況や経営状況から退会の意向を示している会員には、状況が好転すれば通常の会員に復帰していただくことを期待して「休止会員」として籍を残してもらう。

具体的な手続きとして次の方法がある。

- a. クラブ細則に会員種別の規定を設けて「休止会員」などを追加したうえで、例会出席の免除、会費の取り扱い、例会出席時の費用をどうするかなどを決めておく。
 - b. クラブ定款 10 条第 5 節(a)を適用し理事会で特別に「休止会員」を認める。(原則一年間)
この場合においても適用した時の会費の取り扱いをどうするかなどを細則で規定しておくことが望ましい。
3. 高齢の会員、会社などを退職した会員が退会の意向を示された時には、シニア会員、OB 会員などを細則に規定し、出席規定の免除、会費の減免などを織り込むことによりクラブに残ってもらう。

なお、例会が休会中などの理由によりクラブ細則変更手続きが難しい場合には、暫定的にクラブ定款 10 条第 5 節(a)に基づき「休止会員」などを認め年会費などの取り扱いを決めておき、後にクラブ細則に反映する方法も考えられる。